

第9回

クラシックの午後

～気軽にオーケストラ～

2007年 9月2日(日)

開場 13:00 開演 14:00

宇部市渡辺翁記念会館

主催 ● 宇部市民オーケストラ・宇部市・宇部市教育委員会・宇部文化連盟
後援 ● NHK山口放送局 **KRY**山口放送 **tys**テレビ山口 **yab**山口朝日放送
エフエム山口、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、
宇部日報社、FMきらら、宇部好楽協会、宇部音楽鑑賞協会、
（助渡辺翁記念文化協会

・平成19年度宇部市芸術祭 「市民音楽祭(オーケストラ部門)」参加



スッペ 歌劇「軽騎兵」序曲
モーツァルト 交響曲第38番「プラハ」

休憩

チャイコフスキー バレエ音楽「くるみ割り人形」より抜粋

指揮



山口 隆文

TAKAFUMI YAMAGUCHI

佐賀県出身。三好隆三氏の元でホルンを始め東京芸術大学器楽科に入学。'84年よりドイツのアウトクスブルグ市立レオポルド・モーツァルト音楽院に留学。

'88年に帰国し在京のオーケストラで活動。'90年より九州交響楽団に入団。'00年に退団後は福岡市民オーケストラ、久留米市民オーケストラ、山口県交響楽団など数々のアマチュアオーケストラのトレーナーとして招かれ好評を得る。'05年、'06年に久留米市民オーケストラを指揮。尚、'08年には熊本市のEnsemble Labo.Kumamoto の指揮台に上がる事が決定している。ホルニストとしては九州室内管弦楽団、クラヴィス木管五重奏団のメンバー。熊本ホルンアンサンブルの指導及び指揮を務める。また、'04年よりアンサンブル・リベルタに所属し即興を交えたライブを展開している。

ホルンを三好氏の他に、守山光三、千葉馨、ジャック・メレディスの各氏に師事。

フランツ・フォン・スッペ(1819-1895)作曲

喜歌劇《軽騎兵》序曲

この曲は喜歌劇《軽騎兵》の序曲ですが、現在この曲は序曲のみで演奏されるケースが多く喜歌劇としては演奏されません。それはなぜなのでしょう？喜歌劇《軽騎兵》は1866年3月21日、スッペ47歳のときウィーンで初演され、大成功を収めたにもかかわらず、なぜか喜歌劇は伝えられることなく序曲のみ有名となってしまいました。

演奏時間は7分少々と短かめなのですが、なんととっても聞きどころは冒頭の閲兵式を思わせるような、トランペットの勇ましいファンファーレでしょう。トランペットのみごとなファンファーレがパシッと決まると圧巻の一言です。とにかくカッコイイ！！その後はホルンが続いてファンファーレを演奏しますが、これも重量感たっぷりです。弦楽器はそのサポートに徹し、トランペットをはじめ、トロンボーン、ホルンが大活躍するこの曲はとてもさわやかに響きますね。中盤は雰囲気を変えて弦楽器がジブシー音楽に似た哀愁と緊張感が漂うメロディを奏でます。この部分、本日指揮をされる山口先生は「戦争で死んだ兵隊の葬送行進曲のイメージ」と言われました。確かにその重圧感がありますね。そして終盤へ向けてホルンの弾むリズムからまたトランペットが軽やかにメロディを刻んでいきます。最後は冒頭のファンファーレが金管群の斉唱で最大にして曲を閉じます。

スッペの序曲はどの曲も手際よくまとめられ、洗練された軽妙さと美しさを持ったウィーン風の優雅な点で共通しています。この曲もその例に漏れず小粋さも感じさせる軽快な曲に仕上がっています。

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756-1791)作曲

交響曲第38番二長調K.504《プラハ》

この交響曲は1786年12月6日にプラハにて初演されました。なぜプラハで初演？その理由は1786年12月、ほぼ同時期に完成されたオペラ《フィガロの結婚》のプラハでの上演が大成功を収めたことにより、モーツァルトはプラハから招待を受けたからです。1787年1月22日、モーツァルトはプラハで自ら《フィガロの結婚》を指揮しましたが、この交響曲はそれに先立って初演されました。そのため《プラハ》と副題がついていますが、実際の完成は1786年12月6日でプラハ旅行のかなり前です。このため作曲の目的はプラハでの演奏ではなく、1786年の冬のウィーンでの演奏会のためではないか、とも見られています。

この交響曲は全3楽章からなり、メヌエット楽章（他の交響曲では通常第3楽章におかれる）を欠いています。その理由は諸説ありますが、どれも決定打とはならず不明とされています。しかしこの交響曲を体験する人は、メヌエットがあろうとなかろうとこれ以上どんな音楽をここに付け加えることができるのか、と思われるのではないのでしょうか。

【第1楽章】Adagio-Allegro

モーツァルト最後の交響曲《ジュピター》に類似した堂々とした音形の序奏で始まります。この序奏は後の《ドン・ジョヴァンニ》に通じるオペラの序曲の雰囲気を持ち、緊張感を持続させながら主部アレグロを準備します。アレグロはソナタ形式がとられ、第1主題はこの交響曲の前年に作曲された有名なピアノ協奏曲二短調K.466の主題を回想させるものです。第2主題はオペラ《フィガロの結婚》を予感させるモチーフが現れ、躍動感溢れる構成になっています。

【第2楽章】Andante

この楽章もソナタ形式で構成されています。第1主題はヴァイオリンで美しく繊細に奏でられます。第2主題もヴァイオリンで演奏され、その後の展開部以降では弦楽器、管楽器で同じ旋律を重奏します。

【第3楽章】Finale・Presto

急速な力強いフィナーレです。第1主題は7ヶ月前に書き上げた《フィガロの結婚》第2幕のスザンナとケルビーノの2重唱によく似ている旋律が弦楽器で奏でられ、第2主題は弦楽器と管楽器の対話体で提示されます。

ペーター・チャイコフスキー (1840-1893) 作曲

バレエ音楽「くるみ割り人形」作品71より抜粋

「くるみ割り人形」の物語は、ドイツの作家E.T.Aホフマンの童話に基づいています。これをマリンスキー劇場の首席振付師プティパがバレエに構成しています。ただし、音楽の完成後プティパが病気になる、次席振付師イワノフが修正したので、この曲の上演記録にプティパの名前は残っていません。チャイコフスキーはこれを元にバレエ史に残る不滅の作品を残しました。初演は1892年12月6日。クリスマスの夜のお話ですので世界的にクリスマス・シーズンに上演されることの多い作品です。注意したいのは、本作品は組曲版（作品71a）や省略版で演奏されることが多いので、全曲を聴きたい場合はCD,DVDの場合は「全曲」「Complete」といった表示の有無が目安となります。演奏時間は約80分ですが、チャイコフスキーのバレエ音楽の中では短い方です。短いとはいても80分はとても長いので、今回私達は以下の曲を選びました。

小序曲

その名のとおりに小規模で小回りのきいた可愛らしい感じの序曲です。チェロ、コントラバス以外の楽器で奏されるのでおもちゃのオーケストラといった感じに響きます。

第1幕

第1場

1.クリスマスツリー

パーティの準備をしている光景です。弦楽器のひそやかなメロディで始まります。木管楽器の音の動きはロウソクの光のまたたきを暗示しています。ティンパニの強奏に続いて子供たちが客間に登場し、次の行進曲に移っていきます。

2.行進曲

演奏会用組曲にも含まれている有名な曲です。子供たちがクリスマスツリーを巡って踊ります。続いて弦楽器によって奏される弾むようなメロディは子供たちがうきうきしている様子を表しているようです。

6.情景・お客様のお退場。子供たちは寝室へ。魔法の始まり

ハーブの伴奏の上に子守唄のメロディが滑らかに演奏されます。パーティは終わりお客様も子供たちも帰っていきます。クララとフリッツも寝室に去って広間の灯りも消え静かになります。間もなくクララがくるみ割り人形を取りに忍び足でやってきます。彼女は人形に近づきますが、突如柱の時計が12時を告げます。ここからファンタジーの世界に入り込んでいきます。

第2場

8.情景：冬の松林

ハーブの上にホルン、クラリネット、ヴァイオリンが哀愁を帯びたメロディを演奏します。この音楽は幸福感に満たされた感じで繰り返され、ぐっと盛り上がります。クララと王子の道行の音楽です。雪の精が松明を手にとり二人を出迎え道案内をしてくれます。

第2幕

12.ディヴェルティスマン

- a) チョコレート（スペインの踊り）ポレロのリズムに乗ってトランペットがキレ良く爽快に演奏します。
- b) コーヒー（アラビアの踊り）ここからは演奏会用組曲に含まれているおなじみの曲が続きます。東洋風のキャラクターダンスです。もとはグルジアの子守唄だったものです。弱音を付けたチェロとヴィオラによる原始的な太鼓風の伴奏の上に、イングリッシュホルンとクラリネットがエキゾチックなメロディを演奏します。
- d) トレバック（ロシアの踊り）ロシア農民の踊りです。モルト・ヴィヴァーチェという指定どおり、非常に活気のある曲です。力強いメロディが第1ヴァイオリンによって繰り返されます。後半はテンポを上げ、嵐のようなアッチェレランドで一気に曲が終わります。
- e) あし笛の踊り：女羊飼いがあし笛を吹いて踊る曲です。弦楽器のピツィカート伴奏に乗って3本のフルートが思わず耳を惹きつけてくれるような魅力的なメロディを演奏します。

13.花のワルツ

全曲中最も華やかで有名な曲です。もちろん演奏会用組曲に含まれています。こんぺい糖の精の侍女24名が華麗に踊ります。木管楽器による序奏に続いて、ハーブのカデンツァになります。その後ホルンが優雅なワルツのメロディを和音で演奏します。このメロディをクラリネットが受けます。フォルダになって盛り上がると、弦楽器がすすると入ってきて、盛大なワルツになります。

14.パ・ド・ドウ

いよいよ全曲中の見せ場になります。このパ・ド・ドゥは原台本ではこんぺい糖の精+コクリーシ王子が踊ることになっていますが、現在では（1）こんぺい糖の精+くるみ割り人形の王子、（2）クララ+くるみ割り人形の王子、という2通りの演出があります。

- a) アダージョ：ハーブのカデンツァの後、チェロによって感情のこもったメロディが演奏されます。「ドーシラソファミレド（ト長調）」と音階を弾いているだけなのに、どうしてこんなに豊かな情感が漂うのか不思議です。
- d) コーダ：グラン・パ・ド・ドゥの終曲に相応しい快活な曲です。

15.終幕のワルツとアポテオース

全員が賑やかにワルツを踊ります。いつまでも終わって欲しくない幸福感に包まれますが、最後は突然クララの部屋に戻り、おとぎの国での楽しい宴は夢だったと知るのでした。

※紙面の都合上全曲紹介は割愛いたしました。

..... 宇部市民オーケストラ

役員・運営委員

団長：上野明弘 副団長：栗林宏明、濱野妙子
名誉指揮者：十川真弓
コンサートミストレス&コンサートマスター：安永 恵、笹本真理子、内海俊彦
管セクションリーダー：向山尚志
インスペクター：栗林宏明、藤野 隆
マネージャー：向山尚志
ステージマネージャー：山本 忍
事務局：清水治子
監事：末永俊彦
楽器：栗野直樹
楽譜：佐貫政彰、大石正興、山本麻衣子
会計：栗野直樹、市本久子、濱村典子、原田典子、久井のり子
厚生：加藤由香里
広報：吉本宗明

団員(◎印コンサートマスター○印パートリーダー)

ヴァイオリン ◎安永 恵 ◎笹本真理子 ◎内海俊彦 ○清水治子 安楽由利子 在田和子
池田英子 池田芳江 上野 尚 内田久士 香川早苗 栗林左知 坂本直子
佐貫政彰 永本晴美 久井のり子 松井顕子 三宅亜矢子 吉永 準

ヴィオラ ○濱野妙子 市本久子 上野明弘 大石正興 橋本紗也佳 八木智恵美 大木容子
吉本宗明 石森桂子(客演)

チェロ ○栗林宏明 在田康子 石井秀太郎 今井 健 加藤由香里 黒川明德 児玉佑司
濱村和幸 原田圭子 原田典子 藤野 緑

コントラバス ○藤野 隆 兼重美鈴 国光日出生 弘中章司 堀亜由美 八木政治

フルート ○鈴木まさ子 井伊秀子 小賀真理子 宮崎真由美 山影 恵

オーボエ ○宗國敦子 石村 愛 岡崎 兆 川戸裕子 中村香織 薬師神知佳

クラリネット ○大村真奈美 磯谷妙子 加藤 紘 向山尚志 前原隆志(客演)

ファゴット ○小林太郎 伊藤浩太 宮下英晃 村上曜子 義永由奈

トランペット ○藤井淳子 石井愛子 種田裕彦 藤井晶宏 東川 剛

ホルン ○徳永 輝 馬屋原由充 河津弥恵 斎藤美由紀 澤本貫裕 濱村典子 福田 誠
柳井秀雄

トロンボーン ○山本 忍 大村康一郎 山本麻衣子

チューバ 奥中淳夫(客演)

パーカッション 貞國泰子 栗野直樹 山元紀世子

ハープ 小林聡美(参助)

チェレスタ 氏井良枝(参助)